令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　［第２学年］

中３　練馬区立豊玉第二中学校

	課題分析	授業改善策
国語	・漢字の読み、書き、語彙力など基礎的な知識や技能が定着に差がある。 ・文章の展開に即して内容をとらえたり、登場人物の心情をとらえるなど、読み取る力が定着していない。	・漢字の小テストを定期的に行い、定着を図るとともに語句の意味の確認をこまめに行う。 ・叙述を正確に読み取る活動を行うとともに、筆者のものの見方や考え方について、仮説や論の展開、結論を整理するなど、叙述を整理する活動を増やしたり、前後の叙述から判断するなど行間を読む指導を行う。
社会	・基礎的な知識・技能が定着していない生徒が依然として多数いる。 ・グループワークで実りある話し合いをできない生徒が一定数いる。	・小テストの機会を多くするなど、継続して学習する環境を整えていく。 ・課題があるからこそグループワークの機会を多く取り入れる。生徒が取り組みたくなるような魅力ある授業をデザインする。
数学	・多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。反面、基礎の計算の習得が不十分な生徒もいる。 ・思考力が必要となる問題が苦手な生徒が多い。	・個々の能力に応じた声かけや対応を心がけ、繰り返し練習することで基本的な計算や学習内容の定着を図る 。 ・ICT を利用して視覚的にも興味・関心を高められるような授業展開を取り入れ、効果的な活用を行っていく。
理科	・基礎的・基本的な知識・理解の定着に課題が見られる生徒が多く、自然の事物・現象を科学的に捉え、既習事項を関連付けて考える力に個人差が見られる。	・基礎的・基本的な内容を繰り返し確認するとともに、実験・観察や日常生活との関連を意識した学習活動を取り入れ、既習事項を活用して考える機会を継続的に設けることで、知識・理解の定着と科学的な見方・考え方の育成を図る。
音楽	・鑑賞や創作、器楽の活動に、積極的に取り組んでいる。 ・歌唱に恥ずかしさを感じる生徒もいる。 ・ウクレレなどの器楽や歌唱に難しさを感じる生徒がいる。 ・音楽を形作っている要素とそれらの働きを表す用語や記号についての理解を深め、言葉で表現する能力を高めていく必要がある。	・個人で練習できる教材を配布し、声掛けを行っていく。生徒同士で教え合う時間を作る。 ・歌唱に偏らないよう、様々な活動やジャンルを取り入れていく。 ・音楽用語などについては、プリント等を使用して少しずつ理解させる。また、個別対応が必要な生徒には丁寧に指導していく。 ・よい例をフィードバックし、表現活動の幅を広げる。
美術	・題材に関心を持って、意欲的に取り組むことができている。 ・より優れた表現になるよう、思考や模索をすることに不慣れな生徒が見受けられる。	・粘り強く思考し、自己の表現につなげる経験の大切さを実感できる授業展開を工夫する。 ・できる限り平易でありながら、深い学びにつながるよう、指導や資料に工夫をしていく。
保健体育	・意欲的な取り組みがよくみられる。その中で細かな身体操作や戦術的な動きを考えながら学習に活かせるようにする。 ・保健体育で学んだことを実生活でも取り入れ実践できる生徒の育成が課題である。	・ペアワークやグループワークなど学び合いの場を設ける。またタブレットで撮影をして動きの確認をする時間を設定する。 ・体力テストの結果を受け自身の課題にあった運動やトレーニングを考えるサイクルの設定を授業の中で設ける。また、保健で取り扱う生活習慣を日常に取り入れら

		れているかアンケートなどを行う。
技術家庭	・金属を使った製作学習に意欲的に取り組んでいる。作品のデザイン、製作方法、集中力を高めると完成度の高い作品になるが、単調な作業が続くので授業の工夫が必要である。 ・エネルギー変換学習では、電気エネルギーの知識と作品の製作がある。製作には意欲的であるが、電気エネルギーに関する内容について興味関心を高めたい。 ・製作の取り組みに遅れがちな生徒の対応を考える。（技術） ・作品製作に関して、自らの作業工程と手順書を結び付けて考えることが難しく、作業の見通しを立てることが難しい生徒が多い。（家庭）	・作品づくりに使用する機械、工具の使い方をわかりやすく説明する。作品の完成度を高めるために加工した見本と生徒作品でよくできている作品を参考にして作業に取り組ませる。 ・学習内容について、電子黒板、動画、書画カメラを使ってわかりやすく伝え、ワークシートに記入させることで、身近な生活との関連性をもたせる。 ・製作状況に応じて適切なアドバイスと机間指導をする。（技術） ・毎時間の作業目標を提示し、見通しを立てられるようにする。作業が遅れている生徒には個別に対応し、タブレットなどを活用して各々で作業工程や基礎縫いの方法などを確認できるようにする。（家庭）
外国語	・基礎が定着しておらず、英語に強い苦手意識があったり、話す経験が少なかったため、英語で話すことに不安や迷いのある生徒が学年全体に広く見られ、学年全体の課題として指導上の工夫が必要である。	・わかりやすい授業を心がける。特に導入場面で生徒の関心意欲をひきつける工夫をする。文法解説のプリントでは絵やイラストを効果的に使い、わかりやすくする。 ・毎回の授業で行う帯活動にコミュニケーション活動を取り入れ、英語によるコミュニケーションへの意欲を高める。また、スピーキングテストを行い、評価することで生徒の意識を高めるだけでなく、生徒の英会話力の向上率を確認していく。 ・アクティビティを授業に積極的に取り入れ、生徒が楽しく、そしてターゲットの言語材料を使わざるを得ない状況をつくっていく。実際に英語を使えたという満足感を高めていくことで、生徒の苦手意識を取り除いていく。